

教科名	音楽科	校 種	高等学校
-----	-----	-----	------

科 目 の 配 当				
学年	科目名	必・選	単位	授業展開など，授業の形態
1年	音楽Ⅰ	必	1	
2年	音楽Ⅰ	必	1	
3年	音楽Ⅱ	選	2	

科目名（教科名）		音楽Ⅰ（音楽科）			
学年	1	単位数	1	必修・選択・展開	必修

■ 授業の目的

1. 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。
2. 自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。
3. 主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。日本の伝統文化について歴史的・文化的な理解を深め、国際交流に生かせる力を育む。

■ 授業計画

学 期	授 業 の 項 目		内 容
1 学期	○表現・歌唱 合唱（合唱コンクール）		・声域の拡張と、曲種に応じた発声工夫 ・混声合唱における豊かな和声感を追求し、楽曲の情景や背景の音楽的表現の工夫 ・歌詞の内容や曲想を理解した豊かな表現の工夫 ・声部の役割を感じ取りながらのアンサンブルと表現力の向上
2 学期	○表現・創作 （ミュージカル） ○表現・器楽アンサンブル（弦楽器）		・様々な表現形態による歌唱の特徴を活かした表現の工夫 ・歌詞の内容や曲想を理解した豊かな表現の工夫 ・基本的奏法の習得 ・楽器の特徴を活かした表現の工夫とアンサンブル
3 学期	○宗教音楽（聖歌） ○鑑賞		・聖歌や宗教音楽を通じて祈りの心を育む ・楽曲の歴史的背景とともにを行う代表的作曲家の作品鑑賞 ・郷土の伝統音楽と、諸外国の音楽の役割
評価の 観点	知識・技能 (30%)	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性などについて理解を深め、創意工夫などを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽創作などで表している	小テスト・実技テスト・レポート
	思考・判断・表現 (40%)	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている	レポート・プレゼン発表・実技テスト
	主体的に学習に取り組む態度 (30%)	音や音楽、音楽文化と豊かに関わり主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている	授業態度・課題提出
評価の方法と割合	●評価方法：定期試験（実技試験）と発表（プレゼン・レポート）における成績状況と平常点（提出物等）により各学期の成績を算出する。 ●割合：定期試験：70％ 平常点：30％		
教科書・副教材等	●教科書： 「高校生の音楽1」教育芸術社 ●副教材： 「聖歌集」		

科目名（教科名）	音楽Ⅰ（音楽科）				
学年	2	単位数	1	必修・選択・展開	必修

■ 授業の目的

1. 音楽の諸活動を通して生涯にわたり音楽を愛好する心情と音楽文化を尊重する態度を育てるとともに、感性を磨き、個性豊かな音楽の能力を高める。
2. 主体的な鑑賞能力を伸ばし、個性を生かした創造的な活動で、音楽の表現力を一層高める。
3. 日本の伝統文化を継承し、創造していく心を養い、国際交流に生かせる力を育てる。

■ 授業計画

学 期	授 業 の 項 目		内 容
1 学期	○表現・歌唱 合唱（合唱コンクール）		・発声のメカニズムを学び、腹式呼吸の修得と応用 ・読譜力・視唱力の向上 ・混声合唱における豊かな和声感を追求し、楽曲の情景や背景の音楽的表現の工夫 ・旋律・ハーモニーを知覚し、伴奏楽器の役割を感じとり、協力し合いながらのアンサンブル
2 学期	○表現・歌唱（伊語・独語・英語） ○器楽（ギター独奏・アンサンブル） ○宗教音楽（聖歌）		・原語の理解と個性豊かな自己表現の追求 ・旋律・ハーモニーを知覚し、伴奏楽器の役割を感じとり、協力し合いながらのアンサンブル ・基本奏法の習得 ・声部の役割を感じ取りながらのアンサンブルと表現力の向上 ・聖歌・宗教音楽を通じ祈りの心を養う
3 学期	○表現・創作・劇音楽 ○鑑賞		・総合芸術であるオペラ・ミュージカルより音楽と他の芸術との関わりを理解する ・歌詞の内容や曲想を理解した豊かな表現の工夫と、舞台芸術の創造 ・歴史的背景とともに、代表的作曲家の作品鑑賞
評価の 観点	知識・技能 (30%)	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性などについて理解を深め、創意工夫などを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽創作などで表している	小テスト・実技テスト・レポート
	思考・判断・表現 (40%)	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている	レポート・プレゼン発表・実技テスト
	主体的に学習に取り組む態度 (30%)	音や音楽、音楽文化と豊かに関わり主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている	授業態度・課題提出
評価の方法と割合	●評価方法：定期試験（実技試験）と発表（プレゼン・レポート）における成績状況と平常点（提出物等）により各学期の成績を算出する。 ●割合：定期試験：70％ 平常点：30％		
教科書・副教材等	●教科書： 「高校生音楽1」教育芸術社 ●副教材： 「聖歌集」		

科目名（教科名）		音楽Ⅱ（音楽科）			
学年	3	単位数	2	必修・選択・展開	選択

■ 授業の目的

1. 音楽の諸活動を通して生涯にわたり音楽を愛好する心情と音楽文化を尊重する態度を育てるとともに、感性を磨き、個性豊かな音楽の能力を高める。
2. 個性豊かな表現能力と、高い表現技術を身につけ、主体的な鑑賞能力を伸ばす。
3. 日本の伝統文化を継承し、創造していく心を養い、国際交流に生かせる力を育てる。

■ 授業計画

学 期	授 業 の 項 目		内 容
1 学期	○表現・歌唱		・腹式呼吸の確立と応用、声域の拡張、曲種に応じた発声の体感 ・歌詞の内容や曲想を理解した豊かな表現の工夫
	○表現・合唱（合唱コンクール）		・表現内容を総合的に理解し、表現意図をもった創造的な歌唱 ・自主的な練習・発表による積極的な音楽表現の修得
2 学期	○表現・独唱重唱等のアンサンブル（イタリア語・ドイツ語・英語）		・原語の理解と個性豊かな自己表現の追求
	○表現・器楽（邦楽他）		・邦楽の旋律・様々な演奏法や音色を学習する ・我が国や郷土の伝統音楽に対する理解を基盤として、国際社会に生きる自覚の育成 ・曲の構成を理解し、自由な発想で表現するアンサンブル
	○鑑賞		・音楽と他の芸術や文化とのかかわりを理解する
3 学期	○宗教音楽（聖歌）		・聖歌・宗教音楽を通じて祈りの心を育て、社会における音楽（宗教音楽）の役割を考える
評価の 観点	知識・技能 (30%)	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性などについて理解を深め、創意工夫などを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽創作などで表している	小テスト・ 実技テスト ・レポート
	思考・判断・表現 (40%)	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている	レポート・ プレゼン発表・実技テスト
	主体的に学習に取り組む態度 (30%)	音や音楽、音楽文化と豊かに関わり主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている	授業態度・ 課題提出
評価の方法と割合	●評価方法：定期試験（実技試験）と発表（プレゼン・レポート）における成績状況と平常点（提出物等）により各学期の成績を算出する。 ●割合：定期試験：70％ 平常点：30％		
教科書・副教材等	●教科書： 「高校生の音楽2」教育芸術社 ●副教材： 「聖歌集」		